

地域の健康増進へタッグ

弘大と都内の
ヘルスケア業者

研究講座を設置

弘前大学と、ヘルスケア事業などを展開する「生命科学インスティテュート」

よると、ヘルスケアマネジメント講座を大学に開設するのは国内初という。

(本社・東京)は2日、同大大学院医学研究科に共同研究講座「ヘルスケアマネジメント学講座」を1日付で設置したと発表した。同大に蓄積された地域住民の健康情報や自治体の国保データベースなどのデータ解析や応用ソフト開発を行い、地域の健康増進や医療費抑制などに活用するシステム研究に取り組む。当面は保健師向けの健康指導支援ツールの開発を目指す。

健康指導支援ツールはiPadなどを活用。指導する相手の健診データや、同

大が同市若木地区で実施している「若木健康増進プロジェクト」の調査結果などを解析し、疾病予測や対策などを分かりやすく提示できるシステムを目指す。同大と協定を結んでいる鱒ヶ沢町で実証実験を行う。

2日、同大医学部で行われた開設式には、同社健康

与する施策に役立てる実験を行うのに理想的」と期待した。

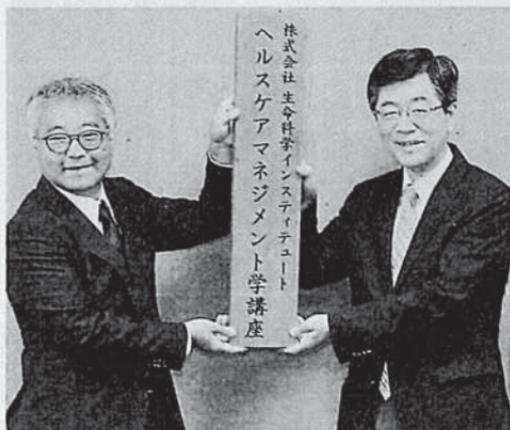
人だけではなく、病気でない人や病気になるにかけている人に対しても保健指導が必要。取り組みが具全体に

普及すれば短命県問題も解決できるはず」と力を込めた。

(三浦康平)

中路重之・同大大学院医学研究科特任教授を研究代表者とし、2019年7月31日までの2年間、同大に

共同研究講座のプレートを掲げる田中部門長⑤と若林研究科長



・医療ICT部門の田中部門長や同大大学院医学研究科の若林孝一研究科長、中路特任教授らが出席。田中部門長は「弘大には地域の健康医療データにアクセスできる環境が整っており、健康に寄